

# 六甲山の自然 魅力知ろう

## 森林植物園80周年シンポ ネットで公開

シンポジウムの動画で講演する県立大の服部保名誉教授

### 六甲山の特色

- I 近畿圏の中心に位置
- II 2つの気候帯
- III 6系統の生物群の共生・交流の場  
(高い生物多様性)
- IV 人の手の加わった多様な自然  
(時に利用に失敗した自然  
(はげ山, 砂防)  
復元の記録が残されている)
- V 都市山(としやま)



神戸市立森林植物園(北区山田町上谷上)の80周年

「生物多様性シンポジウム」

を記念し、六甲山の自然環境の魅力などを発信する

がインターネットで公開されている。

兵庫県立大の服部保名誉

教授は基調講演で、六甲山が近畿の中心に位置するため、中国山地系や海洋系といった六つの系統の生物が共生していることを説明。「神戸は(多文化)共生のまちと言われるが、生物が既にそうだった」と話す。

また、都市部にある千級級の山を「都市山」と定義。全国的には高尾山(東京)なども同類としながら、多様性の点で「日本一の都市山は六甲山」と強調した。

一方、温暖化や集中豪雨が環境にもたらす影響を危惧し、「世界に誇る興味深い山だが、こうした問題を解決しないといけない」と述べている。

森林植物園は生物多様性の向上のため、広場の草丈を高くしたり、倒木や落葉を生かしたりする取り組み

を紹介。御影高校(東灘区)の環境科学部生物班による六甲山のキノコの紹介や、市内の団体や企業の環境保

全活動などの発表もある。視聴は市公式サイト内の同シンポ案内ページから。3月31日まで。(井川朋宏)